

日本 GIF オンラインセミナー
「東ヒマラヤ地域におけるネパールとブータンの発電コストの比較」
実施報告書（概要）

公益財団法人日本グローバル・インフラストラクチャー研究財団

セミナー開催概要

- 主催：公益財団法人日本グローバル・インフラストラクチャー研究財団
- 日時：2021年3月18日(木) 14:00～15:30
- 開催形式：Zoom を利用したオンライン形式（ウェビナー）
- 講演者：荻野馨氏（アジア開発銀行主席専門官）
- 司会者：中山幹康氏（日本 GIF 専務理事、東京大学名誉教授）
- プログラム内容：
 - 14:00 開会挨拶 中山幹康氏
 - 14:05 講演 荻野馨氏
 - 14:50 質疑応答
 - 15:30 閉会 中山幹康氏

開催の趣旨

日本 GIF のこれまでの東ヒマラヤ水資源開発の取り組みについて紹介し、最近のネパールとブータンの水資源開発の現状や問題点についての情報を広く一般に発信するため、アジア開発銀行の主席専門官として、主に南アジア地域のエネルギープロジェクトに携わる荻野馨氏を講師とし、『東ヒマラヤ地域におけるネパールとブータンの発電コストの比較』と題するオンラインセミナーを企画・開催した。

講演要旨

東ヒマラヤ地域では、エネルギーの安全保障、エネルギー源の多様化の要請、気候変動への対応として水力発電が注目されている。ネパールとブータンは水力発電の割合が高い。ブータンは全発電量の75%～85%を輸出している一方で、ネパールは深刻な電力不足となっている。水力発電の際に流量を重視するネパールは、ダムが規模が大きくなり、社会的、環境的インパクトの大きさから全体のコストが上がる。結果として、プロジェクトの難易度が上がり、ファンディングのハードルが上がる。そして建設が複雑化し完成が遅れるため、次回は更に大きな水力発電プロジェクトを計画するという悪循環に陥っている。一方ブータンは、落差重視でコンパクトな水力発電所を建設しており、効率的に発電を行って

いる。今後のネパールの水力発電プロジェクトは、費用効果がありコンパクトな水力開発プロジェクトをデザインし、資金の集約と優先付けを行う、そして電力の「飢餓輸出」を回避し、さらに地方電化を進めることが必要になってくる。

<質疑応答>

ブータンの経済がインドへの電力輸出に依存することについて、ネパールへのインド・中国の影響、ネパールが電力輸出をインドへの政治的武器とする可能性、ネパールへのクリーンエネルギーの普及、などについての質疑応答があった。

アンケート・感想

参加者に対し、Zoom の自動送信メールでアンケートへの回答を依頼した。セミナー情報の入手先、実施内容の評価、今後のセミナーへの期待等について貴重なご意見を頂戴した。

また、今後のセミナー企画の参考のため、当財団のインターンにセミナーへの参加を促し、コメントを得た。

以上